

電氣新聞

エネルギー教育支援事業 特別企画

2022年度 高校生が競う Energy Pitch!

30年後の現役世代が2050年を構想する
社会課題解決 with Energy プランコンテスト

開催概要

■企画名：「第4回高校生が競う Energy Pitch！」

「30年後の現役世代」が2050年を構想する
社会課題解決 with Energy プランコンテスト

※Pitchとは、スタートアップ企業などが短時間でビジネスプランを発表し投資家や政府などへのアピールを行う方式から派生し、短時間で凝縮したプレゼンテーションを行うことを指します。

■主催：電気新聞（一般社団法人日本電気協会新聞部）

■共催：株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社

■協力：静岡ガス株式会社、鈴与商事株式会社、中部電力株式会社

■企画趣旨：2050年には40歳代後半となる現在の高校生たちは、これから2050年の日本を作り、その後の日本を動かしていく世代となります。想定される様々な社会課題を考えていくと同時に、それらの解決策、また社会を支えるエネルギーインフラについても考える場とし、現状のエネルギー情勢とあるべき姿についても討論してもらいます。

■今年度の課題：「SDGs達成に向けたエネルギーのイノベーションとは？」

今回は、高校生の研究活動での大きなテーマとなっている「SDGs」と「イノベーション」がキーワード。2050年に想定される社会課題の解決について、具体的なテーマを設定し、プランを提示してもらいますが、実際にはどのような課題を解決するにもエネルギーやイノベーションは必要になります。様々な社会の課題解決にエネルギーがどのように関係しているのかを含めて、生徒さんに考えてもらいます。

■開催日時：【予選】2022年11月19日（土）11:00～17:00

【本選】2022年11月20日（日）11:30～16:30

■開催場所：【予選】「グランシップ」会議ホール・風（JR東静岡駅南口から徒歩5分）

【本選】「グランシップ」中ホール・大地（同上）

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号 TEL 054-203-5710(代表)

■総合コーディネーター：

開沼 博氏 東京大学大学院 情報学環 学際情報学府准教授

審査委員：山本 隆三氏 常葉大学名誉教授、国際環境経済研究所所長

郡司 賀透氏 静岡大学 学術院教育学領域 准教授

開沼 博氏 東京大学大学院 情報学環 学際情報学府准教授

築地 茂氏 静岡新聞社 編集局 論説委員兼編集委員（共催者）

間庭 正弘 電気新聞 新聞部長（主催者）

特別審査委員：萱野 貴広氏 静岡STEM教育推進センター・理事

■審査・表彰について

○プレゼンターマ

2050年に至る今後30年の道筋において、解決していくべきと考える社会的課題を抽出して、その解決策について研究した内容を発表して下さい。解決にあたり、エネルギーをどのように活用していくかについても考え、検討結果を発表に盛り込んで下さい。問題解決のフィールドは日本国内にとどまらず、自由に設定していただいて構いません。

○審査の基準・指標

【予選】 他校の研究発表への「ふせん質問・提言」の内容が評価対象となります。

「ふせん質問・提言」を行う際の4つの視点

- ①論理的に無理がないか。わかりにくいところや論理に飛躍がないか。
- ②論理的に筋が通っているが、その結論に価値があるか
(もっと価値があると思われる代替案の提言もOK)
- ③その提案は社会課題の解決につながっているか (代替案の提言もOK)
- ④本当に、その提案は実現可能性があるか
(ある程度、納得できるファクトが提示されているか)

【本選】 以下の5項目はすべて均等に評価点となります。

- (1) 理解力＝「正確な事実を知り・課題を把握している」
フィールドワーク、資料、専門家・実務家への聞き取りなどを通して、事実や課題を深く理解しているがゆえの新規性・独創性をもった発想が反映されている。
- (2) 課題解決力＝「現場に転がる見えない課題や課題解決のタネを発見できている」
課題を発見して適切に分析するとともに、その解決策について説得力をもって提示し、社会に良いインパクトを与える内容になっている。
- (3) 実現可能性＝「そのアイデアを実際に実現できる説得力がある」
ただの思いつきではなく、過去の成功事例や既に存在する事例などを元に、実現可能であることに説得力がある。
- (4) 構想力＝「広い視野に立って魅力的な未来をつくる価値観とそこに至る道筋が示されている」
どんな課題が存在し、それをどう解決でき、それを解決することでいかなる未来を実現することに価値を置くのか。全体を貫く構想に整合性と魅力がある。
例えば、30年後、50年後という長いスパンであるべき日本社会を想定し、そこにプロセスを重ね検討している、また5年ごとなどマイルストーンを置きながらその時にある課題やその解決のシナリオ・プランニングがなされている。
- (5) 発信力＝「難しい、面倒くさい話になるのを避け、皆が前向きに進むための魅力的な知見が表現されている」
過度に科学的・政治的になりがちな議論をそうならぬよう噛み砕き、多様な立場に立つ人に伝え、古い認識や膠着した議論をアップデートする工夫がある。

○発表時に盛り込んでほしいポイント

- 1、今回の問題解決策を行うにあたり、必要なエネルギーは何か。
- 2、2050年（30年程度の近未来社会）において、エネルギーの役割はどうなっている
と考えるか。（A、日本国内では。B、地球規模全体ではどうか）
- 3、現在の日本のエネルギー政策についてどう考えるか。2050年に向けてどのような修正が必要と考えるか。

○表彰内容

最優秀賞：1校を選定、正賞の賞状および副賞を贈呈いたします。
（副賞）金10万円 [今後の学習・研究活動の助成金として]

このほか、参加各校への各種表彰を行います。

プレゼンテーションの内容については、イラスト等で可視化する「グラフィックレコーディング」も実施。本選の各校のグラフィックレコーディング（紙もしくはデータ）は記念品として、後日、学校宛に贈呈します。

○メディア等への掲載

当日は、主催者の電気新聞のほか、共同主催者である静岡新聞の取材が入り、議論の様子や表彰内容等について、記事が掲載される予定です。また、「第4回高校生が競う **Energy Pitch!**」で撮影された写真・動画は、大会の活動報告や広報として公式ウェブサイトや公式SNS（Facebook、Twitter等）、各種印刷物に使用・掲載しますので、あらかじめご了解頂きますよう、よろしくお願いいたします。

電気新聞 エネルギー教育支援事業（旧：エネルギー教育賞）について：

2006年、電気新聞創刊100周年記念事業の柱として創設しました。エネルギー教育に積極的に取り組んでいる学校を顕彰することで、教育現場におけるエネルギー教育の意欲を高め、ひいては次世代層のエネルギー問題に対する理解を促すことを目指しています。選考委員長は故・有馬朗人氏（武蔵学園長、元文部大臣、元東大総長）が務めておられました。2022年度からはエネルギー教育賞の後継事業として、新たにエネルギー教育支援事業を開始しています。

https://www.denkishimbun.com/event/enekyo_shien

■各種お問い合わせ先

一般社団法人 日本電気協会新聞部 メディア事業局
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1
電気ビル北館3階
電気新聞 メディア事業局 担当：山田、品田
TEL 03（3211）1555